

IV-81

街メディアのイメージ分析

—京都先斗町の商業サインを対象として—

京都大学工学部 正 員 ○飯田克弘

京都大学工学部 正 員 川崎雅史

京都大学工学部 正 員 佐佐木綱

1. 研究の目的

本研究は、ある特定のストリートを対象とし、その景観要素の中であるまとまったデザインコンセプトを有すると考えることのできる街メディア(商業サイン)のデザイン特性分析から、街路に固有のイメージを推定することを目的とする。

2. ストリートイメージを考慮したサインの心理評価実験

先の目的を遂行するため、京都市内の商業サイン集積地区である先斗町通り(伝統的繁華街)を対象に、図1に示す心理評価実験を行った。

3. ストリートイメージが具現化するサインのデザイン特性

サインの評価は、個々のサインから受ける視覚的印象の度合(印象度)と、個々のサインの先斗町通りに対する適合性(適合度)の2点から行った。上記の心理評価実験において印象度は3段階、適合度は5段階の尺度を用いて調査した。

この2つの評価結果を整理するために、適合度の平均値1.0、非常に印象に残ると指摘された頻度(印象度の指摘頻度)が被験者数の30%であることをひとつの境とし、適合度が高く印象度が低いサインをテキスト型、適合度が高く印象度が高いサインをテキストコア型、適合度が低く印象度が高いサインをアクセント型と呼ぶことにする。この分類によって得られた、先斗町通りにおけるサインのデザイン特性を以下に述べる。

(1)材質感の均整(テキスト型)

背後建築物の素材の中心に木材を用い、のれんやちょうちんなどのアクセサリをを組み合わせることにより下地の中で構成される日本的雰囲気にも毛筆体のサインの文字がうまく組み込まれ全体として均整がとれている。(写真1)

(2)日本文字の均整(テキスト型)

書道を表現するようなモノトーンの色合いの組合せが、日本文字を浮かびあがらせ、それが持つ独特の秩序感を高めている。(写真2)

(3)玄関口の均整(テキストコア型)

木材を中心とした日本建築の間に、材質、デザイン面で違和感のない板看板、のれん、独立看板をバランスよく配置し、まとまりのある情報性豊かな景観要素として成立している。(写真3)

(4)現代建築の幾何学的均整(テキストコア型)

現代建築の課題である間口のおさまり、各部位の配置が幾何学的に計算されており、その比率と英文字

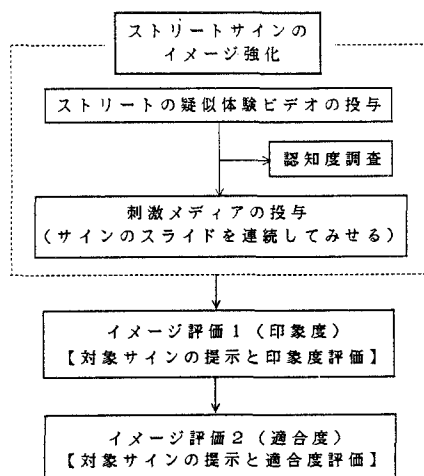


図 1

の均整がストリートの伝統的空間の秩序に呼応している。(写真4)

(5) 広告オブジェの均整 (テキストコア型)

背後の部位に格子状の木材を用いて日本的雰囲気醸し出し、そこに伝統性を感じさせるパーツとしてお触れ書きを使用することで、情報のインパクトの強化がなされている。(写真5)

(6) 街情報の均整 (アクセント型)

歩行者に、街の地理情報や文化情報を多角的に配置することによって、わかりやすさの視点からストリートイメージの均整を図る効果がある。(写真6)

写真 1.



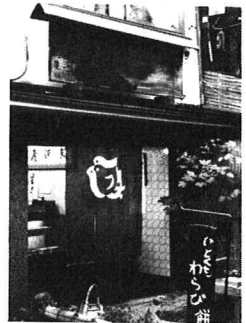
材質感の均整

写真 2.



日本文字の均整

写真 3.



玄関口の均整

写真 4.



現代建築の幾何学的均整

写真 5.



広告オブジェの均整

写真 6.



街情報の均整

4. おわりに

以上のような、先斗町通りにおける商業サインのデザイン特性の分析により、サインに具現化される先斗町通りのコンセプトを、「伝統的空間の均整と秩序」と仮定した。伝統的空間には、その空間構成や形態に幾何学的な均整や素材および色彩の秩序を見いだすことができ、これをそのまま継承するデザインが、この通りのコンセプトであると考えられる。

[参考文献]

- 1) 小川幸裕・灰山彰好・小原誠：ビルサインの景観的評価(その1、その2)、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp. 747-750, 1989.
- 2) 川崎雅史・河西茂行・佐佐木綱：言語的メディアイメージの分析による港湾観光地区修景デザインの基礎研究、土木計画学研究・講演集No. 6、pp. 97-104, 1988.
- 3) 土木学会編：街路の景観設計、技報堂出版、1985.
- 4) 西沢健：ストリートファニチュア、鹿島出版会、1987.